

## 香港ジオパーク認定記念八ヶ岳(2011年3月4/7日)報告

参加メンバー : 今津博明 (74)、金子雅昭 (69)、広本淳子 (64)、濱田貴世 (62)、弘岡道子 (62)、金子晴彦 (63)、ガイド陳世雄 (48 Jacky Chan)

主要コース : ラマ島、マクリホーストレイル・ステージ1+2、ランタオトレイル2、ピクトアピーク

目的 : 香港ジオパークの認定を機会に、日本の中高年登山愛好家にとって納得のゆく登山 + 観光 + 食事 + 買物をカバーする新たな視点の香港ツアーの可能性を徹底的に体験する。

結論 : 盛り込み過ぎの計画で消化不良を起こしたが、分量を調整することで大いに可能性があることが判明。今年11月末から12月にかけて再度実施の可能性が高い。

3月4日出発 : 春とはいえ寒い日で、地上がくもり見え、山々は深い雪におおわれていた



## 香港ジオパーク認定記念ハイク 3月4日午後 いざ小手調べ・ラマ島

香港島の西に浮かぶブードルの形をしたこの島には車道が無い。移動には歩くしかなく、いたって静かでのどかだ。

空港からホテルに到着、チェックイン後、ただちに準備をしてホテル近くの東涌線のオリンピック駅からセントラルの香港駅に向かった。全員にオクトパスが配布されスムーズに改札を通ったつもりが約一名が「ゲイが開かない！」と大声をあげる。それと、ゲイは日本ではパッと自動的に開くが、ここでは自分の手で押し通らなければならない。微妙な違いに外国を感じる。

香港駅からFCCのショッピングモールを抜けて第4埠頭に向かう。これが見通しが悪く分りにくく、そしてやたらに遠い。慎重に方向指示板を追う。

16時50分のフェリーに乗り、ほぼ30分で海鮮レストランが軒を連ねるソク湾に着く。時間後の6時半に戻ると言うので、レストランで人数分の予約をし、村の南の岬に向かう。おいしい海鮮料理をもっとおいしく食べるための腹ごなし、香港の山の小手調べだ。

黄昏と春かすみ、そしておそろくば、煙のせいで空気は不透明。それでも岬では気持ちの良い風が吹く。



香港側の88階IFCビルに対抗して九龍側に来てきた香港最高108階建のユニオンスクエアが輝く。2本の高層ビルがビクトリアハーバーの巨大なゲイトになった。

香港のフェリーは今では大半がスピードボートの様な密閉型になってしまったが、ラマ島ソク湾と言うマイナーな目的地へのフェリーは昔ながらのスタイルだった。



セントラルからわずか30分でここまう天后の靈験を信じる漁民の世界。旧暦の3月23日には廟の前に巨大な飯小屋が建てられ、広東オペラが上演される。

その広場から南の山へ向けて階段道が登っている岬の向こうの村へと通ずる道だ。樹林がうっそうと茂り、いかにも南国の山を思わせる。

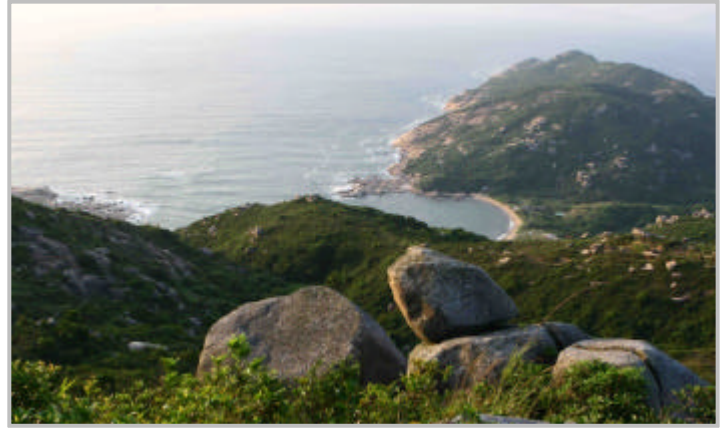




薄暗く静かな森の中をコンクリの道が登って行く



峠が近づくとあちこちに巨大な花崗岩が転がり まるで巨石公園だ



峠からは右手に深湾が見下ろせる 夏の間アオウミガメが産卵する貴重な海岸が広がる



無人の稜線には強い風が吹いていた。5時30分に日が沈んだ。ラマ島には香港島の電力供給を一手に引き受ける発電所がある。その3本の巨大煙突はあまりに大きくちょっと不気味だ。





蒸し基圍海老

野菜炒めと蒸魚



レイボウレストランはこの15年、一帯のレストランを買収して最大レストランになった。食事を終われば専用線でセントラルまで送ってれる。香港ドームの典型だ。



レイボウレストラン専用船とオーナー



オーナー